

令和6年度射水市民病院運営協議会

議事録（要旨）

日 時：令和6年11月11日（月） 午後3時30分から午後4時35分まで

場 所：射水市民病院 診療棟3階会議室

出席者：荻浦委員（副会長）、西森委員、高田委員、島委員、鷺本委員、澤委員

当 局：深原院長、毛利副委員長、柏嶋看護部長、宮本事務局長、北財務管理部長、杉本福祉保健部長、渡邊事務局次長（兼医事課長）、堀川財政課長、倉町経営管理課長、福井管財情報係長、柴田医事係長、泉主任

議 事：（1）院長講演 「一富山県の医療需要とこれからの病院運営」 （資料1）
（2）令和5年度射水市病院事業決算状況等について （資料2）
（3）経営改善の取組について （資料3）

質疑応答

「資料1 院長講演 「一富山県の医療需要とこれからの病院運営」 について」

質疑等なし。

「資料2 令和5年度射水市病院事業決算状況等について」

質疑等なし。

「資料3 経営改善の取組について」

委 員 目標値について、何を参考に設定しているか。

当 局 健全な病院経営のために、入院収益の確保として、国も提唱している病床稼働率7割以上を目標に設定している。

委 員 救急等の件数についてはどうか。

当 局 経営改善の取組は、令和3年度から取り組んでおり、実績から少しずつ改善となるよう目標件数を伸ばしている。紹介患者数についても同様である。

委 員 救急だけでなく、通院患者を入院につなげるようにする、ベースラインが必要。救急だけでは、特定の医師に負荷がかかる。

実態を把握して、日当直に出た医師にはお休みを取らせるなどしなくてはならないのではないかと。医師にもう少し優しい目標設定があってもよいのではないかと。また、民間の病院では、インセンティブを医師に支払っているところもある。

当 局 協議をしているところだが、インセンティブといったことも今後は必要だと考えている。

委員 業種は異なるが、悩んでいるところは人材確保と同じ面がある。当社では、3F（不安、不満、不信）を見える化し、コミュニケーションを取ることで風通しのよい環境を整備するようしている。

当局 福利厚生を含めて、職員満足度調査といったことで意見を集約するなどし、可能な限り対応するように取り組んでいる。

委員 業種は異なるが、病院だけで抱えこむのではなく、協力できることがあれば是非連携できたらと思う。

委員 医師の働き方改革についてどう考えているか。

当局 医師の働き方改革については、医療業界全体で医師だけでなく、他の医療職も含めて取り組む必要があると考える。

委員 他病院で、労働時間の多い医師の実態を聞くと、義務感等が影響していることもある。

当局 当直に出た場合は、代休を取っていただくなどしている。働き方改革については、組織として対応を行ってまいりたい。